

「日々の理科」(第 4431 号) 2026, -9, 27

「秋の北極圏旅行記 (13)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



この日は土曜日で、街のお店はやってないか、開店時刻が遅いことが多いのですが、この駅前のキオスクは土曜でも日曜でも早朝からやってて、助かります。



ホームには「ビリヤット (切符)」という窓口があるのですが、現在、駅で切符は買えません。



グーグルレンズの翻訳機能は便利です。すぐに何語か判別し、見た目のまま文字だけ日本語にしてくれます。今回も3か国を旅行したので、重宝しました。



結局1時間35分遅れで、乗車予定の列車が入ってきました。私は思わず「トーグ・コメン! (列車が来たぞ!)」と叫びました。



電車のように見えますが、正確には「電車」ではありません。電気機関車が牽引する「客車列車」です。日本ではもうほとんど見られない運行形態ですね。



方向幕 (巻き取り式の行先表示) や LCD (電光掲示板) は装備されていません。各乗降口到手差し行

先と号車表示があります。ドアは外開きの扉、「2kl」というのは「二等車」という意味です。



今回は4人グループだったので、「テーブル付きの4人掛け」を予約しました。これは正解で、おにぎりや飲み物を置くのに便利でした。絵を描くのにも重宝でした。各座席にコンセントも装備されています。



この列車は日本でいえば「普通列車扱い」ですが、一応国際列車なので、ビストロ・カー（軽食堂車）も連結しています。



飲み物やケーキ、サンドイッチなどの軽食を買えます。どちらかといえば、「売店車」ですね。



食堂車の座席は誰でも自由に使えます。結構景色が良く、コーヒー片手に北極圏の風景を楽しめます。



最初の停車駅は「キルナ」です。キルナはイエリバールと同じく「鉱山石」の産地です。鉄鉱石鉱山の拡張で、以前と線路の位置が変わり、この駅で列車の進行方向が変わります。



この駅でも20分ほど停車し、結構たくさんの人が降り、同じぐらいの人が乗ってきました。